

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001674		
法人名	株式会社 フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス中島新町		
所在地	愛知県名古屋市中川区中島新町一丁目502番地		
自己評価作成日	平成24年10月26日	評価結果市町村受理日	平成25年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成24年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日を明るく楽しく過ごしていただきたい。自然に自宅で生活しているように過ごしていただきたい。その為に必要以上の束縛を行わず、できるだけ自由に過ごしていただくと考えております。特に居室内はご利用者が自由に過ごせる空間であり、できるだけ制限を設けず、普段の生活からさりげなく声かけを行い、安全に配慮しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの近くには、小学校やスーパー、公園などがあり恵まれた環境にある。リビングは日当たりが良く利用者は思い思いに過ごしている。また、加湿器がおかれ健康管理にも気を付けている。利用者の生活習慣や希望を下に一人ひとりに沿ったケアがなされている。喫茶店、美容院、花見、買物ツアー、日帰り旅行や一泊旅行など数え切れない程あり、外出支援に力を入れている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			a	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく、楽しく、元気よくの理念は、大切にしているが、具体的に確認できるように、話し合いの場を持つようにしたい	法人の理念の他にホーム独自の理念があり、随所に掲示されているが確認はされていない。職員が元気でなければ利用者も元気になるのではないかという思いで毎日ケアに取り組んでいる。	理念を、管理者や職員が共有し意識づけていくために日々の中で話し合い、実践に繋げられる事に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶、買い物、喫茶店に行ったりしている。誘いがあれば、お祭り等に参加させていただいている。地域の方から受け入れていただければ、何時でも参加できます	日常的に交流はないが、散歩や近隣のスーパーへ買物に行った時などは、地域の方と挨拶をしたりしている。地域の行事は老人会会長より教えてもらいお祭り等に参加している。ホームから声かけはしているが参加までには至っていない。	ホームの存在を知ってもらうためにも地域の役員の方との関わりから日常的な交流へと繋げていくと共に継続して近隣住民へ声かけをされることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中、話掛けられると笑顔で答える。実習生の受け入れを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必要な内容は、会議で報告したり、話し合いを行っている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており参加者は、地域代表の老人会会長、利用者、東部いきいき支援センター職員となっている。会議ではホームの行事や状況が報告されている。いきいき支援センター職員より、ノロウイルスについて意見を頂いた。	地域の理解と支援を得るための貴重な機会として、町内会の代表や地域住民の方などに参加してもらえるよう働きかけていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	老人会会長が、運営推進会議に出席してくださるので、その方を通して連絡をしてもらっている	区役所の介護保険課や保健係とは、日頃から連絡を取り合っている。市町村や福祉協議会の研修には、積極的に参加をしている。今年度はノロウイルスの流行にあたり保健所の方が訪問し、予防などの指導を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。 外へ勝手に出て行こうとする方には、その場で一緒に外へ出て、落ち着いたら一緒に戻っている	身体拘束の弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は開放されており、利用者は自由に出入りが出来、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく、精神的な面でも、見過ごさないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			a	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が一人で対応するため、他の職員はあまり理解できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。 十分に時間をかけ説明し、質問にもきちんと答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、話を気楽に聞く機会を設け、意見などはミーティングで話し合い検討する	施設内に意見箱を設置しているが、訪問時、直接話をされる方が多い。また、家族会はないがホームの行事などで、家族同士が会える機会を作っている。訪問の少ない家族には、電話で利用者の様子を伝えている。また、年2回ホーム便りを発行し利用者の写真を載せたり、コメントを記入し家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングで話し合っているが、意見を言いにくい思いをしている職員もいる	代表者は頻繁にホームを訪れており、職員との会話をもつ機会を設けている。月1回ミーティングで職員の意見や要望を聞いている。「なんでも話しやすい」との職員の声も聞かれ管理者との良好な関係が窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は努めているが、給与になかなか反映されないため、向上心が持てなくなる事もある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に回し、外部研修の機会を、より多く持つように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特になし		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			a	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	長く話を聞いてあげる事で孤独にならないように努め、個々に適したサービスや、安心していただける対応に努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に傾聴する事で対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。 できる事はすぐに実行し、必要に応じ策を考え、本人や家族との信頼関係を作る		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったりしている。人生の先輩であり、教わる事も多く、逆に労わってもらう事がある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、情報を共有し、支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、掛かりつけの病院に、希望されれば通ってもらっている。 家族や知人の訪問、電話、手紙なども対応している	入居時に本人や家族から生活歴等の情報を詳しく収集している。友人が訪ねて来ることもあれば、馴染みの美容院、喫茶店、スーパー等に出かけている。また、家族や知人に年賀状や電話等で連絡をとっている利用者もおり、関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にレクリエーションをしたり、利用者様同士の気が合う合わないの問題にも、誰もが孤立しないように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			a	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	守秘義務は守っているが、特に何もしていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉、表情、行動に真意を察しようと努め、各々の意向に添えるように努めている	職員は生活歴を踏まえ、毎日の会話や表情から思いや願いを知るように関心を払い、本人の視点に立って関係者と話し合い、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話を聞く事で、生活歴やライフスタイル、個性を把握しているが、話さない人については、把握できない		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤、夜勤を通じて、全体像や生活リズムを把握し、小さな行動も、見逃さず感じ取れるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に、モニタリングや意見交換など、カンファレンスを行っている	毎月のミーティングでモニタリングを行い、基本的には介護計画の短期目標の3ヶ月で評価して見直しをしている。また、変化時は随時、意向を確認し担当者会議を行い見直しを行っている。本人、家族などに介護計画の説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、食事、水分量、排泄、身体状況、暮らしの様子など、全て記録しているので、全ての職員が、勤務開始前に確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予定外の通院、外出など、家族の要望に対応している。 ADLの低下に伴う、利用者様のニーズに対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			a	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源が、あまり把握できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医との関係は、満つに築きあげられている。 本人家族の希望する医療機関には、希望に添えられるよう協力している	馴染みの医師の継続的な受診を支援している。ホームの協力医及び訪問看護の往診を隔週に受けている。他に歯科、眼科、マッサージの訪問診療も受けている。医療連携体制を取り、本人、家族、職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化でも、訪問看護師に伝え、相談をし、助言をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、満つに情報を交換するが、特に関係作りは行っていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に、事業所の方針は話しているが、それ以外の事はできていない	入居時に本人、家族などに「重度化における医療サービス提供内容に関する指針」を説明している。ホームでの生活継続が難しくなった時には、再度説明し不安の無い様に関係者で話し合い、本人、家族などの意向に添って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、訓練を行った事はあるが、全ての人が受けてはいないし、実践力は欠けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練は行っている	年2回、初期消火や避難訓練を利用者と共に実施している。近所には消防訓練のお知らせをポストインして協力を呼びかけている。また消防の設備点検も行っている。	職員は救急救命講習の参加や災害発生時の備蓄品の確認や、運営推進会議で地域への協力を呼びかけを検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			a	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何度も繰り返す問いかけにも、その度に答え、本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアに心がけている	職員は本人のこだわりや特徴を把握し尊重している。本人の立場に立って考えるように心掛けている。訪問時も本人に寄り添い穏やかに対応している様子がみられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな事でも、本人が決定できるように会話を持っていき、買い物や外出を望む時は、できるだけ希望に添えるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ティタイム、食事以外の時間は、レクリエーションも自由参加にしているし、一人々々の個性を生かせるよう対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる人は、お化粧をしたりしている。季節に合った服装を選んであげたり、意志を聞いて着用していただいている。散髪も月一度行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者、職員一緒に話しながら食べている。配膳など、一部手伝ってもらったり、メニューも、好みを聞いて工夫を凝らしている。誕生日会は当人の好みの物を出している	献立は利用者の希望や季節感を取り入れ決めている。食材は週2回宅配業者に依頼している。毎月20日は寿司の日で出前を楽しんだり、ダイニングに本日の献立が表示され、利用者と職員はテーブルを囲み一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人々々の摂取量を把握している。食べるタイミング、食器の工夫など、食事が進むよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分でできる人は自分で、できない人は介助にて、洗面所で行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			a	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、個々の時間を見計らってトイレ誘導をしたり、トイレでの排泄を目的にしながら、紙パンツやパットも本人に合わせて使用している	排泄チェック表を活用している。個々の状況を把握して、本人のしぐさや意思を確認し、声かけや前誘導を行い、トイレで排泄できるように介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、ヨーグルトなどを食事に取り入れたり、運動を行っている。それでも排便が無い時は、医師の指示の下、個々に合わせて下剤を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は、こちらで決めているが、ゆったり入りたい人には、それなりに工夫や支援をしているし、声かけで気楽な気分が入っていただいている	基本的には週3回午後に入浴している。各自のシャンプー等の用品を使い、寛いだ気分で職員と1対1の入浴介助をしている。毎日の健康管理や毎月の体重測定を行い、安心安全のチェックも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後や食後など、リビングでウトウトされている時などは、居室へ誘導して休んでもらったりするが、できるだけ日中の活動を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに処方箋を整理し内容を把握している。服薬は、手渡しで飲んでいただき、間違えないようにしている。薬が変わった時は、より注意して観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意分野を生かしてもらって、プレゼント作りや飾り物をお願いして作ってもらったり、ある方は好きな抹茶を楽しんだり、レクリエーションを楽しんでもらったりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、喫茶店、買い物、遠出のドライブ、季節によっては遠足など、できるだけ喜んでいただける外出を計画している	近所の公園を散歩している。定期的な喫茶ツアーや買い物ツアーも楽しみになっている。法人グループの1泊旅行やホームの日帰り旅行、ドライブなどで気分転換を図っている。また本人、家族の希望で外泊している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			a	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる方には所持していただいている。 買い物の時には、一定の金額で、好きな物を買っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話を使用していただいている。 手紙もポストにと投函してあげている。 携帯電話を持っている方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまわくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りなど、季節感のある物を一緒に飾ったりして工夫している。 温度は調節して快適に保っている。 調度品は、使いやすい物を選んで置いている	リビングは、南向きで明るく日差しが入り暖かく、利用者はソファでテレビを観たりおしゃべりしている。壁や天井には季節の手作りの飾りや、クラブ活動の書道や折り紙、刺繍などの作品も展示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル、椅子、テレビの配置を工夫して、くつろげるスペース作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の家具などを持ち込み、自分の家の名残を残しながら、居心地の良い空間を工夫している	居室にはテレビ、仏壇、炬燵、鏡台、タンス、ベッド、冷蔵庫等を持ち込み、家族から季節の花の鉢物、新聞や雑誌の購読など自分らしく落ち着いて生活できるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状況に合わせ、ADLの低下が見られれば、話し合いで、それに合わせた環境整備に努め、安心安全な生活と自立支援を応援している		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371001674
事業所名	フレンズハウス中島新町

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 地域の方に挨拶をしたり、ホーム行事への参加などの声かけは行なっているが、交流までには至っていない。ホームの存在を知ってもらうためにも地域の役員の方との関わりから日常的な交流へと繋げて行くと共に継続して、近隣住民へ声かけされることを期待したい。	評価 ×
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。会議では、ホームの行事や状況が報告されている。また、老人会会長より地域の情報を得ている。いきいき支援センター職員よりノロウイルスについて意見が出された地域の理解と支援を得るための貴重な機会としている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 区役所の介護保険課や保健係りとは、日頃から連絡を取っている。キャリアアップのため市町村や福祉協議会の研修には積極的に参加をしている。今年は、ノロウイルス流行にあたり、保健所の訪問があり予防等の指導を受けた。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 室内に意見箱を設置しているが、訪問時、直接話をされる方が多い。家族会はないが、ホームの行事等で家族に声をかけ家族同士が会える機会を作っている。訪問の少ない家族には、電話で利用者の様子を伝えている。また、年2回ホーム便りを発行し、利用者の写真を載せたり、コメントを記入して家族に伝えている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。		○
総合評価		×

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○	×		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。